

4月18日「食品に関するリスクコミュニケーション(米国産牛肉輸入問題に関する意見交換会)」アンケート集計表

(名古屋会場)

出席人数: 112 有効回答: 83 回答率: 74%

問1 あなたはどのような立場で参加しましたか。

	1 消費者団体	2 食品関連事業者(団体を含む)	3 生産者(団体を含む)	4 主婦	5 学生	6 無職	7 地方自治体職員	8 国家公務員	9 その他	* 未記入
問1	27	14	2	5	0	2	13	2	16	2
9	独立行政法人職員・消費者として(2)・農業共済関係(2)・団体職員・プレス・食品安全モニター・新日本婦人の会・女性団体・自営業・労働組合・生活協同組合・食肉販売業小売									

問2 本日の意見交換会の開催を、どのような方法で知りましたか。

	1 厚生労働省・農林水産省のHP(報道発表資料)、配布物	2 厚生局・農政局のHP、配布物	3 農政事務所のHP、配布物	4 その他の行政機関のHP、配布物	5 メールマガジン等	6 新聞、雑誌	7 所属団体からの連絡	8 その他	* 未記入
問2	26	8	2	2	2	4	42	2	1
8	TVによる報道(民放)・食品安全委員会からの案内による								

問3 開催を知って何日後に参加することを決めましたか。

	1 (3日以内)	2 (4日~7日)	3 (8日~11日)	4 (12日~15日)	5 (16日以上)	* 未記入
問3	64	9	6	0	0	4

問4 前半に行った行政からの説明についておたずねします。

問4-1 説明内容について理解できましたか。

	1 理解できた	2 おおむね理解できた	3 どちらでもない	4 あまり理解できなかった	5 理解できなかつた	* 未記入
問4-1	14	46	11	8	1	3

問4-2 提示したスライド資料の内容はわかりやすかったですか。

	1 わかりやすかった	2 おおむねわかりやすかった	3 どちらでもない	4 ややわかりにくかった	5 わかりにくかった	* 未記入
問4-2	12	40	15	12	1	3

問4-3 説明者の説明内容はわかりやすかったですか。

	1 わかりやすかった	2 おおむねわかりやすかった	3 どちらでもない	4 ややわかりにくかった	5 わかりにくかった	* 未記入
問4-3	9	36	21	12	3	2

問5 後半に行った会場出席者間の意見交換についておたずねします。

問5-1 司会者の進行は適切でしたか。

	1 適切だった	2 おおむね適切だった	3 どちらでもない	4 あまり適切ではなかった	5 適切ではなかった	* 未記入
問5-1	17	42	16	3	0	5

問5-2 質問者に対する行政からの説明はわかりやすかったですか。

	1 わかりやすかった	2 おおむねわかりやすかった	3 どちらでもない	4 ややわかりにくかった	5 わかりにくかった	* 未記入
問5-2	6	47	14	8	0	8

問5-3 様々な立場の方がお互いに広く意見交換できていましたか。

	1 できていた	2 おおむねできていた	3 どちらでもない	4 あまりできていなかった	5 できていなかつた	* 未記入
問5-3	2	42	22	7	1	9

問5-4 意見交換の時間は十分でしたか。

	1 長かった	2 やや長かった	3 ちょうど良かった	4 ちょうど良かっただ	5 短かっただ	* 未記入
問5-4	0	6	43	14	7	13

問5-5 発言者の声はよく聞こえましたか。

	1 聴こえた	2 おおむね聞こえた	3 あまり聞こえなかつた	4 聞こえなかつた	* 未記入
問5-6	27	39	9	0	8

問6 意見交換会を開催したこと評価しますか。

	1 評価する	2 おおむね評価する	3 どちらでもない	4 あまり評価しない	5 評価しない	* 未記入
問6	20	36	11	4	1	11

問7 日頃からご関心の高いものについて、3つまでご回答下さい。

	1 残留農薬	2 食品添加物	3 動物用抗菌性物質(いわゆる抗生物質等)	4 環境からの汚染物質(カドミウム、メチル水銀、ダイオキシン類)	5 天然毒素(カビ毒等)	6 加工中に生成する汚染物質(アクリルアミド等)	7 家畜の病気(BSE、鳥インフルエンザ等)	8 有害微生物(病原性大腸菌、サルモネラ菌等)	9 遺伝子組換え農作物	10 食品表示	11 トレーサビリティ	12 その他	* 未記入
問7	37	24	15	21	4	4	41	15	23	22	17	2	9
	12	ポジティブリスト、輸入食品											

問8 本日の「食品に関するリスクコミュニケーション(米国産牛肉輸入問題に関する意見交換会)」の感想、その他運営などで、何かお気づきの点や感じたことがございましたらご記入下さい。

問8

食肉業界発展のため、協力を願いしたい。

FAXの〆切りに間に合わなかった。メールでの申し込みができたらしい。スライド説明について、表面的に感じました。

1月の成田の事例により、日本政府が米国に求めた回答についてですが、米国が回答してきた問題の原因是事象であって、根本原因の特定になつてないと思います。「特異なケース」で片付けようとする限り、今回と同様な問題は無くならないと思いますので、日米で根本原因を特定し、対策を決めるべきだと思います。

本日はありがとうございました。本日出席した者として、参加者が行政の方が多いような気がしました。もう少し食品・食の活動をしているグループの出席があつたらと思いました。又出席者に対して、事前に資料が頂ければと思います。

極めて見にくかったです。

- ・輸入再開に向けての説明会としてまだ感じられない。
- ・自らが、管理出来るシステムを構築するようにすることが先では?

早期再開を望みます。が、1月20日の様な事案が無い様に、現地確認をしっかり行った上、慎重なる再開を切に望みます。

輸入を再々開する以前に、今一度意見交換会を開催していただきたい。

この問題は、それぞれの立場があり、とても難しい問題です。国産牛は仔牛が非常に高くなり、生産者に大きな負担となつていています。消費者は、あまりの高値に食べることを控えているように感じます。米国産の牛肉の安全性が本当に消費者が納得できれば、輸入もやさかではないと思います。消費者が安心できるための情報提供など、行政が関わってやって下さるとよいのかなと思います。

意見交換の時間が短い。意見が出ていたとは思えない。

消費者団体?と名乗る人達ばかりの意見で、反対ありきの意見ばかり。本当の消費者は、この様な場に出席する人ではない。もっと一般的な本当の消費者の意見をもらって下さい。団体の人達は考えが片よりすぎています。

消費者団体の方々に意見が集中していると感じました。輸入が再々開されると、危険のような発言が多々あったのですが、購入するかどうかは個人の意見では?と感じました。

消費者団体の発言が多かった(片寄っていた)。1. 質問時間が短い。2. 早く輸入を再開すべきである。3. 1台、不良車がでたら、全車両の輸入を禁止するのか。それと同じである。4. 食べる、食べないは、消費者が判断する。

米国牛肉の早期輸入再々開を望む。20ヶ月齢ではなく、世界標準の30ヶ月齢にして下さい。

消費者のニーズが輸入を決める。安全第一ならば、その様にする事が、日本の立場である。

パブリックコメントへの回答の様に、結果をオープンにして欲しい。前半の説明が淡々としていて、何を重点説明したいのか、分かり難かった。米国側との約束で、国民に説明する機会を設けただけの様に感じられる。米国側説明に対し、担当部局の姿勢をもっと明確にしてよいのではないか?でないと国民として安心感を持てない。
ex) 日本向けだけでなく、香港向けでも違反事例が出ていることは、仕組み上の問題が消えてないことを物語っている。同一施設で日本向けの他にも用途向けも含めて混流されていると思われる所以、仕向地の識別が確実にできるのか?米国内向けは特定部位が含まれても可とするなら、再発の可能性が皆無とはいきれない。

國の方の意見を押しつける感じを答弁からした。答ありきで何を言っても聞いてもらえないように、思うようにしているのでしょうか。

話をしてもみえることはよくわかりますが、納得できるには今一步難しいです。説明についてのお話はわかりましたが、アメリカ産牛肉を入れるという考え方にはまだ疑問が残ります。食生活、価値観が違うと言わされました。アメリカの価値観を受け入れて食べるというふうにはいかにと思います。オーストラリア牛が、なぜ日本で食べられるのか、もう一度考えていただきたいと思います。

アメリカ任せにならないように、日本政府の責任で輸入条件の遵守がされるように確認できるようにすること。それを消費者に説明していただくことを引き続き求めます。
リビーターの方が多いんですね。
消費者は食べられる牛肉を求めています。米国に対して、政治的な点だけで、輸入再開を急ぎすぎず、しっかりした検査体制を求めます。
開催の予定は一般紙に載せてください。パソコンありきは広く意見を求めるられない。名古屋のリスコミは必ず参加しているが、意見が反映されず役に立っていない。答えありきで残念。安全よりも、経済を優先されている。アメリカ産・カナダ産牛肉は、絶対再開すべきでない。九州・大阪でも、行政の対応の批判が報道されています。
せっかくのいい企画なので、もう少し時間が欲しい。
生産者・消費者など各所属団体・組織からの意見も一つずつ出して欲しかったし、そういう進行にしてほしかった。とにかくもう少し時間があればよかったです。
声が聞き取れない部分が多くあった。
いいかげんに落とし所を見つけると、挙げた手をおろせないのはよくわかりますけど、結局消費者が一番かわいそうになると思います。コーデックスに対してのカドミムの働きかけをしてる場合ではない。
抜き取り検査では、妥当性の確認のみ(全量品質保証はできないと思います)。
米国向け・日本向けの二重の品質基準(ダブルスタンダード)が、不信を招いていると思います。安全性は統一基準とすべき(嗜好性は国民性があるが)。
意見・回答を要約してCHPに掲示されたい。
業者側の希望として、輸入再開を強く希望されたが、消費者としては安全になるまで輸入をしないでほしい。
販売業者の立場にたっている。生産者の意見を発言したかったが?
マイク音量の調整不足で聽きづらかった。
皆、早口過ぎかと思います。気持ちが高まってしまうのは、わかる気がしますが…⇒質問の解答をする前にもう少し質問の補足をしていただけたとうれしく思いました。
始めての参加でまだ認識不足でよく解らない面がありました。
今回、検疫のカットについて、よく理解できました。消費者が知りたいのはこういう情報です。安全と安心が結びつく情報を正しく知りたいものです。消費者ももっと学習して、さらに理解を深めることが求められます。回数を重ねる毎に、リスクコミュニケーションがとられつつあると感じます。情報から正しい知識を選び、考える力をつけていきたいと思っています。
それぞれ様々な立場の意見があり、立場上の意見としては、理解できたか、共通することは全員が消費者であり、牛肉を口にする事になる。自分も口にするという事を考えた上の発言と思えない意見があつた。食に関する問題は、どんなに小さなことでも、大げさに言って命に関わることとして取り組む必要があるのではないか。
安心は人によって違うもの。とても難しい問題ですね。今日のような会を、アリバイ作りに利用するのではなく、丁寧に進めていっていただきたい。情報もきちんと出していただくようお願い致します。
スライドの文字が見にくかった。質問者の質問をまとめて、司会者が司会して下さると、わかりやすかった。
事実についての経過報告であったのかと思いますが、日本政府からみて、何が問題なのか、今後どうしていくのかについての説明がなかった。再開についての通過点として行っただけなのでしょうか。米国の人たちが管理体制の中、アメリカからの圧力の中での再開には反対です。
①ホテルラック(ワブリ)とリムドロインという背骨付きアイテムを発注した日本シベルヘグナー社の責任は問われないのか?日本シベルヘグナー社の発注がなければ、船積みされなかつたという点を考えると、同社には何らかの責任があると思う。 ②日本国内においては、今も国産Tボーンステーキが販売されている。日本国内のせき柱処理もずさんだと思う。
①日本の食品は、世界的に考えても安全度は高いと思っている。 ②もちろん、行政のさらなる安全・安心の確保は必要と考える。 ③米国の輸入再開後も、国産牛のBSE検査は必要と考える。これが国民の安心感を得ることになるし、少数派になるかも知れないが、国産牛の生産・流通・販売の確保に繋がる。 ④消費者団体のリーダー的な人の意見が多すぎる。消費の一部の意見が、また同じような意見が多く出る。牛肉の消費の代表にはならない。多くの消費者は、安い牛肉が出れば買うのではないか(安全度は必要だが)。意見と消費は一致しない。
時間を1時間繰り上げて1時~。
先日のカナダのBSE牛の確認など、これからもあると思うが、飼料(肉骨粉)等の原因究明をもっと追求してほしい。又「食品安全委員会」について、消費者として、十分に機能するように期待している。最近の委員の問題など(6人の辞退)、やはり何か不安を覚える。消費者の納得できるような検査体制など、安心して食べられるような体制を確立してほしいと思います。
意見質問は前回の時と余り進展がない。今回は米国側の再検討の内容を中心に話し合いがなされるのかと思った。「日本向けプログラムに関する調査・対策資料」をこの会に先駆けてもらいたかった。また、安全管理委員会の補充はどう人を選ぶのでしょうか?
参加して良かったと思います。はっきりとした意見のある消費者に拍手したいです。国産の牛肉の生産者のご苦労も少し知ることができたようで、買ってみる気持ちになりました。よく取り組みが理解できたと思います。もっと新聞等で、Q&Aのようなミニ報告して下さい。
米国・カナダには、日本でおこなっている全頭検査、特定危険部位の除去、試料規制の徹底、個体識別番号を付けるなどきちんと要求して下さい。日本はその施策で食の信頼を取り戻してきたのだから、米国・カナダもやるべきと思う。政府は自信を持って、米国・カナダに要求して下さい。
業者がもっと強引な意見が出るかと思ったが、今回はそれもなく一般消費者(主婦の意見を聞いて頂けた)の意見を多く取り上げて頂けたことが良かったです。
もっと広く呼びかけて欲しい。開催時間も生産者も出やすいよう考慮していただきたい。どんな立場の人も最後は食する人=消費者ということを考えてほしい。
今回3度目、ずいぶん進歩されました。聞き取りが大変上手になったと思います。業者の方は、売れさえすればいいの発言に集中されますが、皆さん生活者です。それを忘れて欲しくないです。
スライドは暗かった。
3回目の学習会参加です。流通関係の方、消費者サイトの発言等、多くの意見が出て、とても良かったと思います。行政サイトの返答も、現行の状況を知ることができてうれしかったです。このような学習会に参加して知ることのできる人はほんの一握りです。マスマディアの流す情報が「まこと」と思う消費者にならない為に、今後このような会が設けられることを願っています。
・他食品(輸入)のリスク(違反状況等)をもっと積極的に公表すべき(リスクは無いことを説明すべき)。 ・ブリオン病の研究について広報のこと、少なくともエイズ等他感染症より感染者患者が少ない事等、説明すべき。
それぞれの立場での発言が多く、輸入の安全性については、個々の判断(食べる・食べない)が最も優先されるものだと思います。そのため個々の自由な判断ができるような解禁をすべきであると思う。手順はスムーズに進めるべきであると思う。
会場の都合があるかも知れませんが、発言者の時間制限、2分には疑問を感じます。それは、幅広く意見交換を行うことにより、行政と市民(消費者)の隔たりが解消されることだと思うからであります。また、時間制限することにより、質問者の趣旨がうまく伝わらないのではないか。
基本的には早く再開して欲しいが、日本国内の安心を取り戻す方法を考えないとダメだと思う。アメリカ国内でも、BSE検査を実施してもよいという工場もあると聞いていますので、アメリカ側に輸出する食肉の全頭検査をお願いしてはどうか。我々が直接消費者にアメリカンビーフについて尋ねると、80%以上のお客様は、おいしくて手頃な価格のアメリカンビーフを食べたいと言っています。非常に人気は高いです。
輸入早期再開を主張されるご意見の中に、「多くの施設の中の一社に間違いがあったからと、全面輸入禁止にする必要はない」旨を述べられましたが、日本が、再度禁輸に踏み切った際、アメリカ側から発せられた言葉と全く同じだと思いました。が、別のご意見の様に日・米の国民性の違いや食習慣などなど、両国には食品に対する人々の考え方方に微妙な開きがあると思います。従って、一部の積極意見に左右されることなく、国民の多くが納得できる条件(土壌)が育つまで、再開に向けて十分な準備と、アメリカ側との詳細かつ確実性のあるすりあわせをされる様願っています。その為にも、アメリカ政府が認可した37施設中未登録の分については、輸入再開を待つことなく、前もって実施をし、不足の点は施設側に研修なり、周知なり必要な手段を取って準備をしておけば、再々禁輸といふこともなくなるのではないかと思いますが、木農務省とこのあたりの方策について話し合いができるものでしあうか。(いずれは輸入再開に向けての準備という点で米側にも納得して頂けるのではと思いますが)。